

理系女性の キャリア インタビュー

「理系女性」のキャリアで 大切なのは、「理系女性」である ことを気負いすぎないこと



常にオリジナリティあふれる商品開発や先端を行く技術革新に取り組み、世界の様々な国と地域において高い信頼を獲得している日産自動車株式会社。同社は性別、国籍、文化、キャリアなどによる社員の多様性（ダイバーシティ）を尊重し、女性のキャリア開発やワークライフバランスの支援にも積極的に取り組んでいます。

今回お話を伺うのは、その日産自動車へ1993年に入社し、出産後も管理職として第一線で活躍し続けている初鹿野さん。子育てと仕事の両立について、女性のキャリアに対する考え方について伺いました。

エンジニアというお仕事を選んだきっかけ、そして日産自動車に就職を決めた理由を教えてください。

エンジニアだった父の影響もあり、理系の学部に進み機械工学を専攻することは、私にとって自然な選択でした。またエンジニアの仕事の中でも、コンピューター向けの製品づくりに携わることは早いうちからイメージしていました。幼い頃からモーターショーに連れて行ってもらっていたこともあって、自動車は特に身近な存在でしたね。

大学院での研究テーマは、「繊維強化プラスチックの疲労強度」について。材料力学にあたる分野のため研究室では鉄鋼業界や重工業界に就職する人が多かったのですが、私はやはりコンピューター向け製品をつくりたいという想いが強かったですね。最終的な入社の手続きは、日産には女性が働きやすい環境があると感じたからです。

入社した後は、どのような仕事を手掛けてきたのですか？

入社してから2012年の3月までは、ずっと研究・開発部門（以下R&D）に所属していました。はじめは「車両計画室」という自動車開発の最上流工程を手掛ける部門に配属されました。しかしいきなり最上流を手掛けるよりは地道に図面を引く設計に携わりたいという希望を伝え、3年目に設計に異動。車体設計にトータルで13年間携わりました。その後はR&D内のノンエンジニアリング部門である「リソースマネジメント部」で、R&Dの企画や海外拠点のマネジメントを2年ほど手掛けました。2011年には再びエンジニアリング部門に戻り、車両軽量化の先行開発におけるプロジェクトを担当しました。

そして2012年4月、初めてR&Dを出てグローバル本社へ異動。現在は最高執行責任者（COO）である志賀のもとで、日産オリジナルの問題解決ツールである「V-to-V」を活用し、コーポレートレベルの課題を抽出・解決するサポートを行っています。

これまでご経験された中で、特に印象に残っている仕事について教えてください。

ひとつは、車体設計を担当している時にアメリカ・デトロイトの拠点に1年間出向した経験です。そこでは大型のトラックやSUVの新車開発プロジェクトを担当。現地の設計会社やメカサプライ

ヤーと共に設計を行いました。設計する車種やプロジェクトの進め方など、すべてが初めて手掛けること。当然大変なことも多かったのですが、自由な環境で刺激的な1年でした。

ふたつ目は、リソースマネジメント部での仕事です。エクゼクティブバイスプレジデントのもと、中期経営計画の策定に携わりました。リーダーシップや経営レベルの判断を学ぶ、非常にいい経験ができましたね。

現在小学生のお子さんがいらっしゃるのですが、出産・育児に対するサポートはどうでしたか？

日産では基本的に育児休職後、産前と同じ部署・ポジションで復職します。上司や部下との信頼関係が築けている場所に戻るため、復職が非常にスムーズでした。さらに私は休職期間が半年と短く、休職中も社内の情報を共有してもらっていたので、ブランクをほとんど感じませんでした。また、復職後も子どもの体調が悪い時は周囲が早く帰るように促すなど、気遣ってくれました。仕事と育児の両立はもちろん簡単なことではありませんが、こうした周囲の理解や協力があるからこそできることだと感謝しています。

両立にあたっては事業所内にある託児所の存在も非常に大きかったですね。こちらは日産が取り組んでいる多様性（ダイバーシティ）の推進、特に女性のワークライフバランス推進策として、私自身もチームの一人となって提案し実現した施設。自らが関わってできた託児所を自ら利用できる

というのは、感慨深かったですね。

このように日産は女性がワークライフバランスを推進する上で、制度面でも社員の意識の面でも非常に高い水準にあると思います。

出産前後で仕事に対する考え方の変化はありましたか？

復職後半年で管理職（時間管理勤務外）となったので、業務負荷は変わらない中、「限られた時間でいかに質の高いアウトプットをするかが重要」と考えました。もともと効率を意識して仕事をするタイプでしたが、出産後はより一層意識するようになりましたね。あとは時間に追われながらも、楽しく仕事をするように心がけています。同じことをするにしても、楽しくするのも辛くするのも心の持ち方次第です。

また、出産時期はきちんと考えた方がいいですね。私はある程度自分のバックグラウンドを築き、周囲との信頼関係ができた上で産んだため、特に問題なく復職ができました。若い時、まだキャリアが固まる前に産むという選択肢もあります。一人の命に責任を持つことでもあるので、「いつにするか」の決断においては誰かに言われて決めるのではなく、自分の責任で決めることが大切だと思います。

理系女子がキャリアを考える上で、アドバイスをお願いします。

あまり「理系女子」であることを気負いすぎず、

「もっと気楽にこうよ！」と伝えたいですね。理系の女性は男性に比べて圧倒的に数が少ないため、学生の頃から自分がマイノリティだという意識を強く持ちがちです。その意識にとらわれて、何をすることも周囲の目を気にして肩肘張ってしまう人が多いと思います。私も以前はそうでしたからよく分かります。

確かにダイバーシティの観点で、組織として女性活用を意識することはとても大切なことです。しかし個人の視点で考えると、「女性」であることだけでは何のパフォーマンスもあげられません。結局は、一人の人間としてどのような仕事をして、キャリアを築くか。それは個人の能力次第であって、性別は関係ありませんね。早く自分の得意分野や自信を持てるフィールドを確立させた方が、伸び伸びと楽しく仕事ができますし、周囲も認めてくれるはずですよ。

PROFILE



日産自動車株式会社
V-up推進・改善支援チーム 主管
早稲田大学大学院 理工学研究科 修士
初鹿野 久美（はつかの・くみ）